

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カッター線電子デバイスセンターB棟増築工	階数	地上4階
建設地	愛知県安城市二本木新町一丁目7-	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条の指定区域	平均居住人員	90人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,016時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2017年10月27日
敷地面積	6,288 m ²	作成者	篠田 諭
建築面積	3,784 m ²	確認日	
延床面積	6,410 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

環境品質 G (35) / 環境負荷 L (43)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.1

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 0.0 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

②資源の有効活用

3.0

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.9	0.48				3.9
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31				
1 階高のゆとり			1階:4.65m、2階:4.3m、3階:4.2m、4階:3.2m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31				
2階、3階床重10850N/㎡ 4階床重8350N/㎡				3.0	0.38				
3.3 設備の更新性		②		3.0	0.17				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.11				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.22				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー				-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化				5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				2.9
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型タンク付便器、自動水栓、センサー付小便器の採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63				2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.8	0.22				3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆材の使用	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68				
1 消火剤			ABC粉末消火器(二酸化炭素)	4.0	0.33				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33				
3 冷媒				3.0	0.33				
LR3 敷地外環境				-	0.30				2.8
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCo2概算値:91%	4.1	0.33				4.1
2 地域環境への配慮				2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止			燃焼機器設置なし	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				1.6	0.33				1.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				1.0	0.40				
1 騒音		独自		1.0	0.50				
2 振動		独自		1.0	0.50				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40				
1 風害の抑制				1.0	0.70				
2 砂塵の抑制				3.0	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ガッツ-総電子デバイスセンターB棟増築工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 カリツ(株)電子デバイスセンターB

計画上の配慮事項	
総合	既設建物の増築計画 倉庫業を営む倉庫として利用する
Q1 室内環境	「評価対象外」
Q2 サービス性能	空間のゆとりについて倉庫ということで高さにはゆとりを持たせるよう配慮した。 1階は4.65m、2階は4.3m、3階は4.2m、4階は3.2m なお、4階は建物上空に特別高圧線があるため低くなっている
Q3 室外環境(敷地内)	室外機はすべて屋上屋根に配置し、排熱に配慮している。
LR1 エネルギー	照明機器をLED照明とする。
LR2 資源・マテリアル	節水型洋便器、自動洗浄小便器、自動水栓、F☆☆☆☆材の使用。
LR3 敷地外環境	敷地外に従業員駐車場あり
その他	